

令和7年度 第1回武蔵野市産業振興審議会 要録

【審議会概要】

日 時	令和7年6月19日（木）10：30～12：00
場 所	武蔵野市役所 812会議室
出席委員	福田敦会長、小田宏信副会長、高橋勇委員、坂井健司委員、平湯友子委員、田川良太委員
事務局	小池産業振興課長兼経済対策調整担当課長、花岡係長、北村まちの魅力向上担当係長、小澤主任
審議会次第	1 開会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10：30 2 議題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10：35 (1) 審議事項 ア 令和7年度における各施策の取組内容・達成指標について (2) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11：45 ア まちとわたしとあなたプロジェクトの報告書案について 3 閉会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12：00
配布資料	次第 資料1 【R7】第三期産業振興計画管理・評価シート（案） 資料1－2 【R6】第三期産業振興計画管理・評価シート 資料2 令和6年度 まちとわたしとあなたプロジェクト報告書（未定稿） 資料3 産業振興審議会委員名簿 資料4 令和7年度スケジュール

【議事】

1 開会

・配付資料の確認

2 議題

(1) 審議事項

ア 資料1、1－2について事務局より説明

会 長	20の施策について、特に予定として重点的な取り組みをわかりやすく説明いただいた。皆さんのご意見を頂戴したい。
副 会 長	【施策5】 ふるさと応援寄附の事業者は一般公募なのか。市役所から働きかけるのか。
事務局	本市には現在約300件の返礼品があり、中間支援事業者と市の職員で各所に働きかけて地道に数を増やしてきた。特にバルミューダ社については、国の審査に1年以上の時間を要した。実際に市内に工場があり、部品が製造されていれば問題ないが、そういうわけではないため、本社機能として企画立案だとか、広報の戦略が練られているとか、その製品に対する価値創造の半分以上が武蔵野市内で行われているという証明が必要だった。何度も書類のやり取りをして、昨年返礼品の導入に至ったという経緯がある。
副 会 長	部品は海外生産でも、デザイン機能などが境南町の本社にあるということか。
事務局	製品の大部分の要素をそこで作っているということで地場産業と認められるため、部品をどこで作っているとかではなく、考え（立案）という部分で承認された。返礼品対象業者は基本的には公募していて、連絡があった事業者に市から説明に上がっているところが多いが、CO+LAB MUSASHINO 事業などで接点があった事業者の方から返礼品の登録依頼をいただく場合もある。
副 会 長	【施策3】 デザインマンホールやトランスボックスのラッピング事業は、アニメ事業者に著作権料を払っているのか？

事 務 局	著作権料を取ってしまうと、東京都屋外広告物条例に反するため、ライセンス料という形では支払っていない。公共広告であることが必須条件となっており、一部書き下ろしのような形で、新たにデザインしていただいている部分のデザイン料を払っている。
田 川 委 員	継続して支払うような使用料として支払うことはできないという仕組みのため、支払い是一次のみ。事業者のご協力ができない事業である。元々あるアニメのイラストやロゴデザインに「×武蔵野市」という文字を入れてもらうためにデザイン料を払っている。
事 務 局	アニメ制作会社の売り上げには直結しづらい取組みではある。
副 会 長	市内の大手企業の撤退が目立つが、本社機能の流出に対する危機感や状況認識はいかがか。
事 務 局	具体的な動きは現段階ではないが、危機感を感じている。近隣市との連携など今後検討していく。 また、アニメ事業者などを市内に繋ぎ止めるために、アニメノマンガムサシノ等の事業者をリスペクトしたイベントを開催したりなど、商工会議所などでも一生懸命取り組んでいただいていると認識している。
高 橋 委 員	計画に記載のある事業について、未完成のまま終わっているものが多いと感じた。残念なことに市内事業者でも会社が大きくなると、吉祥寺のキャパでは収まらず市外へ出ていくので、なんとか繋ぎ止めている。もっと根底のところから改善していかなければこの流れは変わらないだろうという印象。 施策についても、やっていることは素晴らしいが、やり方が違うのではと強く感じる。デザインマンホールの施策も、武蔵境でいうと3か所の設置で終わってしまっていて、本気になっていないと感じる。アニメ会社などは市内に沢山あるが、今までまちとの関わりが全くなかった。まちにある会社のマンホールを設置すれば、親和性もあるし、事業者が協力しようという気になると思う。 まず一つは、今まちにある事業者をどのように発展させるか。もう一つは、いかに来街者呼んでくるか。色々やった上でどのような成果が出たのかが経営者にとっては重要なので、もう少し成果を明確に示してほしい。 今年の桜まつりはとても盛り上がり、正直市民はこういうのを求めていると感じる。CO+LAB MUSASHINO 事業もやってよかったが、もっともっと拡大して、市民に武蔵野にはこういう素敵なお店があるということを伝えていただきたい。事業者の方にも武蔵野で事業やってよかったと再認識していただけるのでは。 また防災について、井戸があるということは市民の安心にも繋がると思う。武蔵野市は、住むにも事業するにも快適で安全なまちですよというのを大前提にやれるような事業推進をしていきたい。 商工会議所としても、絶対にやらなければいけないと思っていたのはDX推進。人流調査をしてどのような人が来ているのか調べる必要がある。いろいろな事業があるが、それをやったことでどのように来街者・市民に反映されているのか検証するというのをやっていきたい。
事 務 局	デザインマンホールは設置場所が歩道上などに限られるため、武蔵境駅周辺では3か所に留まってしまった。昨年設置した後に武蔵境地区商店会連合会にも考えていただき、回遊性イベントを開催した。非常に好評で2,000～3000人の誘客があった。マンホールカードは武蔵境プレイスでも配布をしているが、非常に人気。配布枚数が全体で3万枚、武蔵境だけでも1万枚を超えていて、来街者が増えているひとつの要素だと感じている。吉祥寺地区・武蔵境地区と設置してきており、あとは三鷹地区が残っている。これについてもぜひ設置をとという声が商店会等から多く届いているため、市としてもいま動き出しているところ。三鷹地区についても地元の事業者さんを巻き込み、こういった形でつけられるかといったことを今後調整していく。また、デザインマンホールは4～5年でデザイン部分を取り換える必要が出てくるので、高橋委員のご意見等を参考にしながら、新たな事業者様との連携も考えていきたい。 成果を見せていくというのは重要なことだと思う。評価を立てたものに対して、どのようなことを実施したのかということも、資料に落としてはいくが、それ以外にもアウトプットをしっかりとPRしていくというのは重要だと考える。CO+LAB MUSASHINO 事業についても、現在は認定事業という形でやっているが、こういったも

	のが認定されているのか、というところを強くアピールしていくことが大事だと考える。 防災の観点で、井戸の話は以前もいただいていたが、市内農家にご協力いただき農業防災兼用井戸として設置していただいている。これについても農政部門だけではなく、防災部門と連携しながら、PR方法等考えていきたい。ただ、井戸については課題もあり、昨今PFAS等の問題から農家も「井戸を掘る」というところに対しての抵抗を感じているという情勢はある。 最後、人流調査について、各種吉祥寺等で行われるイベントで、どんな人の流れがあるのかといったところについてぜひ調査をしたいと考えている。町場とも情報を共有しながら、見直しや再編に役立てていきたいという思いは強く持っている。昨年、事務局の中では、予算確保を画策していたが、認められなかった。今後、商連や会議所、観光機構と連携の手法も見せながら、しっかり予算を取っていきたい。
高 橋 委 員	DXの件で、まちに来ている外国人観光客等を見ていると、みんなスマートフォンを持っている。もっとスマートフォンで回遊できるイベントなどを進めていけたら、まちのステータスに繋がる。人流とDXを使った情報提供を徹底していけば良いのではないかと感じる。また、デザインマンホールはあくまで手段だから、デザインマンホールじゃなくてもいいのでは。極端ではあるが、下水とか上水が通ってなくても、人が通るところにそういったデザイン性のあるものを設置できればよいと思う。まだまだやり方はたくさんある。 吉祥寺は素晴らしいまちで、素晴らしいお店もいっぱいあるので、そこでアニメというコンテンツを使うことで、より一層吉祥寺・武蔵野市が際立っていくと思う。
平 湯 委 員	行政の役割と市民の役割で、必要なことはたくさんあるが、行政しかできないことは仕組みづくり。その仕組みが入口となって、そこから自分たちでまちを作っていくことが面白い。仕組みがあることで継続して行って、まちが勝手に盛り上がっていくのが理想。子育て支援に関しても、子どもにかけられる費用が限られるときに、行政に全部やってほしいと言っているわけではなく、枠を作ってほしいと言っている。この委員会で検討していることはそこが大事なのかなと感じる。 評価シートについて、例えば保育をしていて、いま子どもが何に興味があって、何に視点が向いているかをキャッチしてから、こういう保育をしていこう、という流れがあって、それをやってみた後の振り返りがその次の狙いに繋がっていく。せっかく評価シートの今年の評価でところに出ているものがあるので、それを来年どのようにしていくかというのが繋がって見えるものになると良い。 【施策3】 計画書のコラムに「文化と産業」と書いてある。世代を超えた、武蔵野市のもつイメージを大切にしたい。高齢者の方が、武蔵野市の文化を感じながら文化的にここで暮らしていけるというところまでイメージしている、というのがすごくあると思っている。それと新しい文化とのバランスをもうちょっと考えた方が良いのでは。今まで武蔵野市の文化を楽しもう、と思っていた人が、アニメの話だけということで尻すぼみになっていくのは良くない。両方あるから豊かで多様なんだという内容があると良い。 【施策6】 報告を見ていると、至らなかった、できなかった等の苦勞が見受けられる。3番の買い物支援なども、せっかく評価のところで色々書いてあるのに、今年の内容で内容が変わっていなかったりするので、評価を受けて今年どうするのかというのをもう少し書いてあると良い。「居場所づくりと買い物支援」とセットで書いてあったのはすごくいいなと思った。行政が買い物だけ支援するというのではなく、いろんな人が集える場所があって、その中から困りごとも見えて、「ああそれならできるよ」みたいな会話も生まれてくるのではないかと感じた。予定のところにも居場所づくりのことを入れたら良いと思う。 【施策7】 子どもや子育てのところで、子どもをどう捉えるかが大事。「子どもにやさしい」というキャッチコピーがあるが、優しいという言葉は誤解されやすく、チャホヤすればよいと思われがち。要するに人として尊重する、あなたもまちの一員だよ、と大人がちゃんと対峙するということかと思う。まちの力と繋がるということでは、子どもがまちでお店を営む人々等と出会って関わっていくことでこのまちが好きになっ

	ていくし、そういうまちを作っていきたいと小学生のうちから考えられるので、そのあたりも仕組みの中に取り入れてほしいと思う。 また、まちとわたしとあなたプロジェクト（以下、「まちプロ」）が子ども分野に載っているのは、今更ながらなんだろうと思った。まちプロに参加している人たちは、子どもを中心とした話をしようと思って集っているわけではない。まちプロは一つの施策に入るというよりは、計画を見ても一つずつの計画じゃなく、そもそもの計画の考え方。各主体が一体となって進める方針と政策、それぞれ事業者も行政も商店街も市民もみんな役割がそれぞれあって、その中でまちのことをどうやって考えていくかとか、こういうことやりたいというのを考えるプラットフォームだと思う。そのためまちプロを行ったから子どもに関する取り組みを行ったと言わないでほしいと感じている。位置的にどうなのか。子ども子育て支援課で関わってやっていることは具体的に何があるのか。
事務局	まちプロで子どものことが解決できると思っているわけではないが、集まる要素として考えている。様々な方に集まっていたくため、ひとつの解決策の提案として、子ども分野のこともこの場で話せるといいのではと考えている子ども子育て支援課とは、今年から始まった子どもプランで連携ができればと話している。具体的な話はまだ決まっていないが、どのようなアプローチでやっていくかなどお互いのプランとの兼ね合いを見つつ連携していきたい。 行政の役割、仕組みづくりというのをきっかけに始めたのがまちプロ。様々な事業者・市民の方々が繋がり、新たな可能性が出てくるのではないかと考えている。昨年1年やってみて、人が集まりとても盛り上がったが、それが継続できるかというのはまた難しい問題。継続できるような仕組み・仕掛けを行政として考えていく。今年度については、そこで出てきた提案に対して何かひとつの形として実行していただくというのを目標にやっていく。 評価シートの書き方についてのご意見はおっしゃる通り。昨年からの繋がりをわかりやすくするために工夫したい。文化と産業について、産業の目線でいくとクリエイティブ産業との連携にフォーカスしがちだが、従前から引き続き行ってきたイベントや活動に対しても忘れずに記載していきたい。 買い物支援については、なかなか進みが見られず苦労しているというのは間違いない。福祉部署を連携して進めていきたい。商店会に買い物支援事業をしていただく際の補助金メニューは既にあり、共有もしている。だが実行になかなか進んでいない状態。今年商店会の皆様にアンケートを行っている。ヒアリングを昨年より強化してやっていきたいと考えている。
高橋委員	私の会社では定期的に母と子が集まって情報交換している。子どもというよりは親が何を求めているのかを考えた方が良い。高齢者についても、なかなか家から出ないので、会社の空いている部屋を使って意見交換会を開いているが、来るのは女性ばかり。何とかして男性に参加してもらえないか方法を探っている。 最近一番心傷んだのは子ども食堂のこと。この地域にも子ども食堂を使っている方がたくさんいる。そういう大変な人たちに無料チケットを配って楽しめるような場所を作っている。
坂井委員	評価シートについて、この振興計画そのものについては5年計画の1年目がやっと終わったところ。令和6年にいろんな施策をやった結果、審議会での報告事項をもとに、次の年の目標を立てて整理していくのが理想。すでにできているところもあるが、庁内でいろいろな部署があって、同じ歩調で振り返りができていないケースが多そう。管轄部署ごとに進捗管理をしているため、バラバラ感がある。そのあたりをどのように合わせていくか。 例えばデータをどのように記録し、それを元に目標値として今年はどういうデータを取りましようといったところを記載していくと、年度ごとの進捗が数値としてわかるものもあると思う。また、プラチナマップの導入という具体的な施策が書いてあって、初年度にどのくらいアクセスがあったのか、そのアクセス数をどういう施策を使って伸ばしていくのかという目標を書いていくとわかりやすい。CO+LAB MUSASHINO事業のようにデジタルでデータが残るものは評価シートの中に数値を入れて現状を明記することが大事だと思う。5年間の計画で施策の柱ができているので、そこは崩すことはできないと思うが、施策を実施している人たちが自分たちで評価するのではなく、中には第三者機関を作って評価してもらうようなものを作っても良いのではない

	か。市役所の中だけではなく、市民目線、事業者目線での評価基準を作っていくというのを考えてみたらどうか。 買い物支援については、先日の商店会の補助金説明会でアンケートを求められたが、背景が語られていなかったため唐突感を感じた。そして今日やっと計画の説明を読んで意味を理解した。施策をやる肝が話されていないと情報が届かない。どうしてそれをやるのか、といった情報をしっかり伝えられるかどうか施策のひとつひとつの進め方に繋がっていくのでは。課題・情報をそれぞれの現場から吸い上げるのも大事だし、吸い上げた情報を他の人たちにどう伝えるかが大切。
事務局	シートの作りは数値化できるものとそうでないものがあるが、できるところについては数値化を一つの視点としてやっていきたい。第4期に向けた評価の切り分けについて、どういった形が良いのか十分な議論が必要。進捗管理をしていく中でどういった在り様がいいのか検討する。情報の出し方についても、町場の皆さんのご協力を得るには、どういった背景があるのかといったようなことは説明が不可欠だと改めて感じた。
田川委員	この計画が始まって1年、1年目の評価を受けて2年目。今回事務局からは、実際に行うことを中心にお話をした。語られてないところにも計画のエッセンスが入っている。この計画は市役所がやる計画ではなく、市民の方々や事業者の方々と一緒に作っていくもの。つながる場をどのように作っていくかが大切。
会長	東京商工会議所で、生産性の向上や価格決定力といった検討会を1年くらい行っている。横浜市では地域貢献企業の認定を行っていて、企業が取り組まれていることを見える化し、認定されると企業にとってもメリットがある。 ひとつの工夫として、掘り起こさないしは認定のようなものを作って、武蔵野市には素晴らしい企業がたくさんあるんだ、ということの魅力として見える化するのはどうか。生活と産業のプラットフォームを作るとというのがひとつの目標だった。 ただ、稼げる町という魅力を発信していくためには、文字通り CO+LAB（コラボ）になるような、一社だけだとできないけどクロスで何かやればできるかもしれない、そういうネタ（種）がどの程度あるのかという所が面白さにつながる。そういったことがプラズマ状態でおこってくれば非常に面白いまちになるお感じている。他市では難しいかもしれないことも、武蔵野市だからできるようなこともある。 この審議会もそうだが、行政だけでなく町場の方々も、うまく回していける力がある。より良くしていこうという協力が開花して、他の市を圧倒するようなものに昇華していくと、非常に魅力的なまちができていくと思う。 学生の話が出たが、どう関わるかが大事。学生は目標や何かのきっかけが欲しいはず。失敗が許させるうちにいろいろやらせてあげることが大事である。
田川委員	事務局として、今回ご指摘いただいた点をフィードバックしてから令和7年度スタートとしたい。

以上

（３）その他

資料３について事務局より説明

３ 閉会